

健やかに生き、安らかな最期を

Living Will

2017年
10月発行

No. 167

リビング・ウイル

参議院議員

山東昭子さん

ベストな終末の姿
きちんとして伝えたい

- ファシリテーター養成研修会
- 五味博子・受容協力医の活動
- 連載「四季の歌」旅愁





参議院議員

山東昭子さん ベストな 終末期の法整備に 力を尽くしたい

構成／会報編集部・郡司武 写真／八重樫信之

たんです。その時は私も忙しかったりで、少し時間が経過し、昭和48年でしたか、選挙応援で懇意になつた渡部恒三さんに連れられて角栄先生とお会いしたんです。角栄先生の亡くされた息子さんと私
が同い年だったので、「そうか、生きてればこんなふうになつてるのか」なんていわれましてね。それで、昭和49年の参議院選挙に初めて出ることになったんです。当

時、「企業ぐるみ選挙」とか言われました。

「角栄先生に『若いうちに政界へ』と言われ」

——ご一族の中にも政治家がいらっしゃるんですね。

山東 そうですね。曾祖父は山東直砥といつて、坂本竜馬や陸奥宗光とも親しかったようで、陸奥宗光が神奈川県令（知事）の時に神

奈川県参事（副知事）をしておりましたし、大叔父は衆議院議員だった児玉亮太郎です。原敬の秘書から代議士になった人です。祖父の義兄は朝日新聞の副社長やNHK会長もした下村海南（宏）で、終戦の玉音放送の際の内閣情報局総裁でした。まあ、そういう血があるといえはあるんでしょうか。
初めて田中角栄先生にお目にかかった時に、「大事なものは、いろんな人に会って吸収する能力があるかないかだ。政治家といつても最初はなにもわからない。モノになるには10年かかる。それには若いうちに政界に出ることだ。女性が少なすぎるのもよくない、女性ももっと活躍しないと……」といろいろ言われ、選挙に出ることになりました。32歳でした。
岩尾 山東先生とは、私が厚生省（当時）にいた頃からの付き合い合いです。年末の予算案編成時など、省内の陣中見舞いによくおいでいただきました。
山東 国会議員として最初は私、知的障がい者の教育プロジェクト

岩尾 先日、日本食生活協会の会長だった松谷満子さんのお別れの会での山東先生の弔辞、感動しました。松谷さんは、長生きというよりもどうしたらみんなが健康で過ごせるか、に腐心して活動されてこられました。「食育」ということにも以前から力を入れていて、農水省ともずいぶん掛け合つて頑張つてこられた。
山東 そうですね。よく頑張つてこられたと思います。私も自民党食育調査会長として一緒に活動してきましたからね。
岩尾 私たちの世代は、山東先生が女優として活躍されているお姿は知っていますけれど、そもそも政治家になるきっかけは、何だったんですか。
山東 昭和47年でしたか、NHKで文化人の政治討論会のような番組があつてね、鈴木健二アナウンサーが司会で。そこでの発言を、自民党の人や田中角栄総理が見て、「あれ、いいじゃないか」となったようで、幹事長だった橋本登美三郎さんから巻紙の手紙がき

に関わっていて、いろいろ施設を回ったりもしました。橋本龍太郎先生の近くについて、その後、厚生労働省の仕事が多くなりました。年末の予算取りなど、いろいろ思い出がありますね。夜中の2時頃、未熟児のいる病院などに主計官にも一緒に行って実際に見てもらい、看護婦さんの人員確保などの予算を付けてもらったこともありまし。男の議員の方は、疲れて寝ている大蔵省(当時)の主計官を起こして、「ね、予算付けてよ」なんてやっていましたが、私は寝ているのを起こすのは可哀想だと思つて、「お願いします」とメモを机に残してきたこともありまし。それで、ちゃんと予算、付けてもらいましたよ。

「元氣なうちに終末のあり方を伝えること」

岩尾 先生に今、私どもの尊厳死とか終末期医療の分野にお力を貸していただいておりますが、それらに対する原点は、どこにあるのでしょうか。



山東 死というのは誰しも訪れることですが、日本人は、死について語っちゃいけないみたいなきことがありますでしょ。でも、これからは死を前向きに語っていいのではないかと思えますね。お寺も、亡くなってからのことばかりですから。どう生きるかについて、もっと踏み込んでほしいですね。私も75歳ですが、幸い、現在は薬も飲んでいないし白髪も染めてません。日本をいろいろ回ってますと、元氣なお年寄りが多いし、活躍してますよ。元氣なうちに死を語り、終末のあり方を伝え、相続についても話したりする

ことが大事だと思います。

岩尾 今は、長生きの時代ですが、寝たきりになって人工的に生かされているような状態ではない、どう価値のある生き方ができるかが極めて大事ですね。「クオリティ・オブ・デス」という言い方もあります。命が「限りある状態」になった時に、死に向かう価値をどうつくっていくのか。

岩尾 がんになると、生活のすべてががんに対する意識になってしまつて、思っている以上に、がん以外に楽しいことがあるのに、周りに「この人はがんだから」となつてしまふ。

生きていくほうに、もっと自分の考え方を覚えていっていいの。「生きる価値」を最期まで求めることが大事だと強く思います。

「日本は『世間体』という壁を作っている」

山東 私の父は明治43年生まれで、29年前に亡くなっていますが、安らかな最期でした。白菊会に入っていたので献体をしたんですがこれが大変なの。文句がくるといけないから、幅広く、家族や親せきの同意書がいっぱい必要なんですよ。「えーっ、そんなところにま

で同意書を求めるの？」って思いました。最期まで生きて、献体を希望したら、家族とトラブルになったというような話も聞きました。**岩尾** 最近では献体を希望する人が増えてきていると聞きます。超高齢社会で家族のいない独居老人が増えてくると、死後、大学に献体すれば葬儀などの後始末をしていただけるので、増えているのかもしれないですね。ただ、私の学生時代、解剖実習で割り当てられた献体の中に、胃がない方がおられました。胃がんの手術をしたようで、実習用献体としては不完全でした。先生おっしゃるように、献体では家族の同意という大前提がありますが、日本では医療現場で家族の意向というのを、本人も、いわゆる「忖度」してしまつて、「どうしますか」と医師が聞いても「家

族と相談しないと決められない」と言う。本人の意向が分からないと、医師もどうしていいか、困つてしまふ。

山東 日本は「世間体」というところが、いろんなところに壁を作っているような感じがしますね。世間体より個人の意向ですよ、大事なものは。

岩尾 本人にとつても家族にとつても、今言われた世間体からみても、良くない状況だと思います。今、問題なのは、認知症などで自分の意思を明確に示せない人の最期をどうするかですね。「遠くの親せきよりも近くの他人」で、身近で面倒をみてもらっている人に本人の意向を判断してもらうことができないだろうか。成年後見制度があり、本人に代わつて「家族」が意思を示すとなつていますが、「家族」といつてもどこまでが家族なのか、その範囲が明示されていないのが現状です。遺産相続でも、その本人が意思表示できない状態であれば、第三者に相続はできません。ずーっと連絡もなかつ

さんとう・あきこ

1942年、東京生まれ。11歳で子供番組の司会として芸能界入り。15歳でラジオドラマ「赤胴鈴之助」のナレーターを務める。1974年、田中角栄首相(当時)に請われ参議院選挙に全国区から立候補して初当選、最年少参議議員に。1990年、科学技術庁長官に。2007年、女性初の参議院副議長に就任。参院議員の当選7回は過去最多に並び、女性では初。終末期における本人意思の尊重を考える議員連盟の顧問を務める。

山東 昭和60年に、アメリカのホスピスに視察に行ったことがありますが、宗教の違いもありますが、向こうでは牧師さんたちが中心になって活動していました。「生きている時間を楽しむ」そういう意識が強くありましたね。余命1年くらいの若い人たちを視察しましたが、野球の好きな人は出来るだけ野球を見に行つて、それで満足して亡くなったとか。アメリカ全土を回つて、がんの撲滅を訴えて亡くなったとか。それぞれ、自分に与えられた時間を上手に過ごしているような印象でした。日本も、そういう社会環境になればいいなあと思いましたね。でも、日本では、なかなかホスピスの数も増えていっていませんでしょ。

たどこかの遠い親せきがやつてきて相続していく、というのが今の日本の現状です。なんとも理不尽ですよ。

医療関係者にとつては、本人の意思表示したりリビングウィル一枚でもあればいいんですが。

「政党の意向というより議員個人の判断を」

山東 ですから、私たちは終末期の医療についてのルール化に向けて取り組んでいるわけです。現場のそういう声を聞きながら、法制化を含め、考えていかないとけない問題ですよ。尊厳死の意思表示はシンプルにしたほうがいいと思えますね。

岩尾 先生が参議院副議長になられた10年前の2007年と今とでは、参議院の役割が変わつたという印象がありますか。衆議院のコピーみたいな言われ方もされます。参議院は、もう少し独自性があつていいんじゃないかと思えます。先生には終末期医療だけでなく、いま問題になつている「喫

『生きる価値』を最期まで求めることが大事 (岩尾)

煙・禁煙のルールづくり」でも主

導的な立場におられますが、この
ような個人の生き方とか主観に関
わることにおいては、賛否につい
て党議拘束をかけないとか。

山東 政策の内容によっては、そ
ういうことも必要でしょうね。タ
バコの問題は大臣も議員も、お互
いに柔軟性をもって取り組まない
と、うまく進まないと思いますよ。
生死の考え方は多様ですから、団
体や政党の意向というより、もう
少し議員個人の判断、個性を出し
てもいいと思いますね。

「法整備はもめない形で 進めることですね」

——いま、将棋が話題ですけど、
先生は「将棋文化振興議員連盟」
の会長でもありますよね。

山東 将棋は議員になる前からプ
ロの指導を受けていましたが、女
性にも将棋を広めたいということ
で、将棋会館に誘われて行ったり
しました。田中角栄先生も将棋が
好きでしたから、目白とか軽井沢
に行つて、将棋を指したこともあ

りましたね。

岩尾 そういえば、将棋の藤井聡
太4段は中学生です。夜中まで将
棋をさしているのを見て思っ
ますが、先生も子役時代に夜中ま
で仕事をされて、労働省（現厚労
省）から「労働基準法違反じゃな
いか」と言われなかったですか。
山東 労働省から聞き取り調査な
どがあった記憶はありませんね。

先日、藤井君の29連勝のときに
行つたんですよ、将棋会館に。将
棋連の会長なものでね。終わっ
てからの感想戦を19歳の増田康宏
4段と14歳の藤井4段がしている
のを見てました。新しい時代を感
じましたね。

岩尾 それでは最後に、会報の読
者は12万人おりますが、読者にメ
ッセージをいただければ。

山東 会員の皆さんの思いは、お
そらく同じだと思うんです。尊厳
死に対し、政策として法律をきち
んと作つて対応していかなければ
いけないなと思つています。それ
には、先ほど理事長が言われたよ
うに、党議拘束を外すとかして進

岩尾総一郎理事長が再選 日本尊厳死協会の新役員が決まる

一般財団法人日本尊厳死協会の
理事会、評議員会が6月24日、都
内本郷の東大構内ホールで開かれ、
今後2年間の新しい役員が決まり
ました。理事長（代表理事）には
岩尾総一郎理事長が再選され、副

理事長には鈴木裕也、長尾和宏両
氏が再選、青山邦夫氏が新しく就
任しました。（別表参照）
今回改選されたのは2年の任期
満了を迎えた理事（15人）で、う
ち10人が再選され、5人が新しく



岩尾総一郎（いわお・そういちろう）／日本
尊厳死協会理事長、医師。元厚生労働省医政
局長、慶應義塾大学医学部客員教授。1947
年生まれ。慶應義塾大学医学部卒。

めることでしょうかね。日本はいろ
んな分野でそうなんですけど、「言
わなくても分かり合える。なあな
あ」みたいなところがありませんよ。
これからはきちんと主張していく
べきは主張し、周りの環境を整え
ながら、もめないような形で進め
ることでしょうかね。その人にとつ
てベストな終末、苦しまないで生
を全うできるような、そんな法整
備に力を尽くしていきたいと思っ
ます。

対談を終えて

本文にあるように、行政官時
代から、山東先生にはずいぶん
と長いご厚誼をいただいている。
今回、久しぶりに先生とお話す
る機会を持ったが、エネルギー
シユでチャタリング。まったく
お年を感じさせない。禁煙議連
をはじめ、まだまだ、国会での
存在感は大きい。

日本尊厳死協会理事長・岩尾総一郎

加わりました。最高議決機関であ
る評議員会と監事は任期途中のた
め、改選はありませんでした。理
事会・評議員会では2016年度
の会員数を含めた事業報告と
2017年度の事業計画などが示
されました。

会員数は減ったものの 収支は改善

会員数の年度別推移は、
2012年度の12万6000人を

ほぼ会費収入のみで運営されて
いる協会にとつて、会員数減少は
協会収支に直結しており、入会に
つなげる効率的な普及啓蒙活動の
方策が求められている、としてい
ます。

一方の収支は、2016年度の
経常収益が1億5700万円、
前年度に比べて1300万円の減
少。

経常費用が、普及啓蒙活動の見
直しなどにより1億6900万円
でおさまり、前年度に比べ
2600万円の大減額。その結
果、当期経常増減額は1200万
円の赤字とはなったものの、前年
度に比べ1300万円改善された
と報告されました。

2017年度役員名簿

【顧問】

牛尾治朗 ウンオ電機株式会社社長
扇 千景 元参議院議長
奥田 碩 元トヨタ自動車株式会社社長
小泉純一郎 元首相
吉永みち子 作家

【理事】

岩尾総一郎 代表理事、医師・慶應義塾大学医学部客員教授
青山邦夫 副理事長、弁護士・元名古屋高裁部総括判事
鈴木裕也 副理事長、医師・埼玉社会保険病院名誉院長
長尾和宏 副理事長、医師・長尾クリニック病院長
安達俊郎 理事・事務局長、会社役員
江端英隆 理事、医師・札幌徳洲会病院名誉院長
小林 司 理事、元中日新聞局長・元家裁調停委員
近藤和子 理事、看護師・マザーリング&ライフマネジメント研究所所長
丹澤太良 理事、元会社員
土肥理緒 理事、弁護士・看護師
野元正弘 理事、医師・愛媛大学医学部附属病院特命教授
橋村 襄 理事、元新聞社論説委員
原 信之 理事、医師・国立病院機構福岡東医療センター名誉院長
正木文治 理事、会社役員
満岡 聡 理事、医師・医療法人満岡内科クリニック理事長

【監事】

茂木敬司 会社顧問
和田義博 公認会計士・税理士

【評議員】

北村 聖 医師、国際医療福祉大学大学院教授
相澤好治 医師、北里大学名誉教授
伊勢田暁子 看護師、東京医科歯科大学大学院非常勤講師
川合 昇 元会社役員
但木敬一 弁護士、元検事総長
鳥海房枝 保健師、東京都看護協会保健師職能委員
信友浩一 医師、九州大学医学部名誉教授
松根敦子 元神奈川県点訳奉仕団連絡協議会会長
丸尾多重子 NPOつどい場「さくらちゃん」理事長
宮島俊彦 岡山大学客員教授、元厚生労働省老健局長

ファシリテーター養成研修会開く

「LW世話人」という

新しい活動の輪へ

今夏、協会で初めての「LW・ファシリテーター養成研修会」が佐賀県で開かれました。

聞き慣れない言葉ですが、「ファシリテーター」とは「世話人」といった意味です。

研修会は7月22、23両日、嬉野市の国立嬉野医療センター会議室で開かれ、約50人が参加した。佐賀、長崎両県の協会役員のほかは大半が会員ではないがLWに関心を持つ両県の有識者。企画した協会の満岡聰・さが会長（本部理事）、白髭豊・ながさき会長の呼びかけにこたえた人たちだ。

研修会は1日目岩尾總一郎理事長、板井孝彦郎・宮崎大学医学部教授ら5氏による講演と質疑応

答の座学、2日目は「理想の事前指示書に作り替えてみよう」を課題にしたグループ討論のあと、松本武浩・長崎大学医学部准教授が「LW普及とICT（情報通信技術）活用の提案」を講演した。

新しい試みだけに、随所にユニークさが見られた。参加者の多彩な顔ぶれと、合宿気分があふれた型破りな運営方式である。

会員でなくてもLWに関心 佐賀、長崎の多彩な顔ぶれ

参加者は男女半々で50、40歳代がほとんど。地域医療ネットワークや医療機関に所属する医師、看護師、薬剤師、介護職員が多かった。長崎大学や佐賀大学の医学、



グループ討議では講師が各テーブルを回った。正面は白髭豊ながさき会長＝国立嬉野医療センターで

文言固い、ガイダンス動画を 若手合宿から注文数々

まず、文言が固く（「…考えて書いたものであります」）、一般市民に広げようという気持ちを感じられない。文章はやさしく、平易にと指摘された。また、入会希望者に案内書が届くだけだが、協会には「ガイダンス動画（DVD）」を用意したり、「入会相談アドバイザー」を養成したりした方がよい、という意見も出た。

実は、時間が不足して議論を幾つか積み残した。それでも参加者の全員が「次回も参加したい」と希望した。1泊2日とはいえホテルでは全員が4人相部屋で布団を敷きつめての一夜。LWを、お互いを理解し合える会となった。

「LW・ファシリテーター」の役割はまだ見えてこない。が、LWに関心を持つ人の輪が地域で生まれてくる可能性を感じた。

岩尾理事長は挨拶で「ファシリテーターは、LW作成とその支援のなかで活動できる存在になるのではないか。他の地域でも研修会

を試みたい」と述べた。



LW情報を地域ネットで共有… 松本・長崎大准教授の提案

- 「意思決定支援に関する世界の潮流」（岩尾總一郎理事長）
- 「患者の意向を尊重した意思決定のための研修会」（白髭豊ながさき会長）
- 「成年後見制度の問題と医療代理人」（江越正嘉弁護士、さが理事）
- 「意思決定支援の問題事例と宮崎市の『わたしの想いをつなぐノート』（板井孝彦郎宮崎大教授）
- 「協会発行のLW検討会報告」（満岡聰さが会長）

講演と講師は次の通り。

研修会では、長崎大学医学部の松本武浩教授が講演の中で「地域医療ネットワークでLW情報の共有」を提案した。

長崎県ではICTを利用した地域医療連携として全国最大規模の「あじさいネット」が運用され、340医療機関が参加し、登録患者数は約6万7千人。

共有情報は、手術など治療内容や診療記録、CTなど画像情報に

薬の調剤情報。たとえば、かかりつけ医がパソコンで「ネット」にアクセスして、他病院で受けた患者さんの診療データを閲覧して、診療に役立てられる。

課題多いがLW普及にも

もし「ネット」にLW情報が共有できれば、終末期患者の意思はどこからでも確認できる。ひいてはLWの普及につながるという発

想がある。

松本准教授はLW情報を「個人管理健康情報」とし、個人が持つ臓器移植カード、オレンジノート（認知症関連）情報も含めて包括して「ネット」のデータベースに保管することを提案した。

ただ、個人情報情報だけにLWの意思変更など情報更新を本人自身ができることが求められる。個人情報保護面からの課題も多い。

協会は日本で最多のLW情報を集積するだけに、「その道筋を開くバイオニアに」という意見も会場で聞かれた。

活動コラム



内外から異色の顔ぶれで議論 第6回LW研究会開く 高久日本医学協会会長も挨拶

第6回日本リビングウイル研究会が6月24日、東京大学伊藤国際学術研究センターで約300人が参加して開かれた。意思能力が衰えていく人の支援をどうするかについて、現場の声や海外からの報告も交えてディスカッションした。

佐賀市で内科クリニックを開く満岡聡医師（協会理事）がコーディネーターを務めた。報告者、パネリスト（写真）は海外からの2人を交えた7人で、うち女性が5人という構成。地方で活動する人も並んで異色の顔ぶれだった。

日本医学会の高久史磨会長も姿を見せ、飛び入りで挨拶した。高久氏は「研究会を知り、初めて出席させていただいた。意義深い活動である」と述べた。

佐賀県で活動する上野幸子看護師、鐘ヶ江寿美子医師、都内で在宅医療に取り組む鈴木央医師が「現場から」を報告、松隈知栄子弁護士（愛知県）が医療同意・代行の法的問題を取り上げた。また「海外から」は、米国在住の大西睦子医師とオランダ在住のシャボットあかね研究者がそれぞれの国の意思決定支援の実情を報告、議論に加わった。



LW受容協力医師制度の展望

ルポ——3000人以上を在宅で看取った 五味博子医師（市原市）の臨戦活動

「寝なくていいのよ、私は」と、24時間365日、在宅医療に対応している五味医師の日常とその思いを、千葉・姉崎に訪ね、ルポする。



姉ヶ崎駅近くのビル5Fにあるクリニックで、五味博子医師

「痛みや苦しみが強いつきの往診は緊急車（ホスピスカー）ですみやかに駆けつけます。自宅療養を続けていきたいとお考えの方、できるだけ早く退院をご希望の方、サポートするため24時間、365日対応いたします」

ホームページに、そう掲げる五味博子医師（59）は、千葉県市原市のJR姉ヶ崎駅近くにクリニックを開いて25年。これまで3000人以上を在宅で看取ってきた。ここ数年は年間200人ほどだというから、2日に1人以上を看取っていることになる。

「ここは田舎なので、老人は末期を悟ると自宅に帰りたがるし、家

族も昔から『家の中央の間』に床を移して、普段通りの生活の中で自然に往生されることが多いんです。そこに私たちが呼ばれ、最期を看取るわけです」

「パジャマを着て寝てませんから」

それにしても、24時間、365日対応とは大変では？と水を向けると、患者さんには五味医師のケータイ番号を覚えておくのだから、「いつでも心配な時は呼んでください。必ずすぐに来ます。日曜、祝日も、夜中でも、いつでもかまいません。私たちはパジャマを着て寝てませんから」と



赤色灯の付いた車で駆けつける

わらず、急変した患者に家族があわてて救急車に連絡し、病院に連れていかれることもあるという。「本人の意思にかかわらず連れていかれたら、体中チューブだらけにされてしまいます。土壇場でそんなことされたら、これまでの意思の確認と努力がダイナシよ」。そんな場合は、救急車にすぐに家

伝えてるんです。寝なくていいのよ、私は。普通に寝てて、私たちがのような在宅・末期ケアの仕事なんてできやしません！」と、ハギレがいい。

クリニックの看護師と訪看など総勢24人ほどでチームを作りながら対応に当たる。常に臨戦態勢にある五味医師の往診緊急車（ホスピスカー）には、赤色灯が設置されていた。覆面パトカーのあれと

同じもの。「全国で何台もないですよ。警察に許可を得て設置しています」。

「尊厳ある死」に いたく共感

末期にある患者も千葉弁で「最期はほっとけちちよー（放っておいてほしい）」と言ひ、そして家族も医師側も「最期は自宅で自然に……」と確認しているにもかか

まで戻してもらおうのだという。

五味医師が尊厳死協会の受容協力医師に登録したのは4年前。「尊厳ある死」に対する考え方にいたく共感したからだという。「リビングウイルの、特に最後の『私の要望を忠実に果たしてください』の方々に深く感謝申し上げます……私の要望に従ってくださいました行為一切

の責任は私自身にある……」のころね。日本人が持っていた、周りに対する配慮と死に対する潔さでしょうか。

尊厳死協会や受容協力医師制度に対しては「圧倒的にPR不足。もっと多くの人に知ってもらわなければ」と熱い口調だった。

会報編集部・郡司 武

第1回 LW受容協力医師 活性化対策プロジェクト開く 協会による「認定制度」の導入へ

初めての「LW受容協力医師活性化対策プロジェクト」が7月28日、本部会議室で開かれた。

①登録医師数がなかなか増えない、②受容医師の受けるメリットがない、③尊厳死協会と受容医師の関係性が希薄、④会員から登録医師へのアクセスがわからない、など、現在抱える問題点に対して、

それぞれどう対策を立て、活性化していくのか。理事長、副理事長3人、理事（支部長）3人、事務局スタッフで、報告・話し合いが行われた。

冒頭、岩尾理事長が「受容医師を増やすことは協会はじめ、支部の大きな仕事の一つ。現在、東海支部が愛知県や地元医師会と連携

し、一体となった活動を展開している。この画期的な活動を全国に広げたい」と挨拶。これを受けて、東海支部長の小林理事が「数年前の支部大会で『医師の知恵を借りながら進める』ことを確認し、その後、愛知県・名古屋市の医師会と共催して開いているシンクタンクの会、さらには法制化研究会に発展してきた」と報告。

関東甲信越支部長の丹澤理事も、「問題点の解決をさぐるべくまずはアンケートを行い、活性化に向けた活動を開始している」と話した。

「朝日ムック」とのタイアップも

具体的な対策としては、「受容医師に冊子やマニュアルを作って配る」「朝日新聞出版のムックと協定会報とのパートナータイアップによって登録医師数の底上げを図る」（長尾副理事長）などの報告・提案がなされた。受容協力医師のメリットとして、協会による「認定制度」を導入することが検討された。「認定証」を作成し、送付するといったもの。この「活性化対策プロジェクト」は、具体化に向け、適時開かれる。（郡司記）

季節を感じさせる1枚の写真と
懐かしい唱歌でつづるページです

四季の歌

——その風景と背景

第二回

旅愁

●犬童球溪

更け行く秋の夜、旅の空の、
わびしき思いに、ひとりなやむ。
恋しやふるさと、なつかし父母、
夢じにたどるは、故郷の家路。
更け行く秋の夜、旅の空の、
わびしき思いに、ひとりなやむ。

窓うつ嵐に、夢もやぶれ、
遥けき彼方に、こころ迷う。
恋しやふるさと、なつかし父母、
思いに浮ぶは、杜のこずえ。
窓うつ嵐に、夢もやぶれ、
遥けきかなたに、心まよう。

〔中等教育唱歌集「明治40・8」より〕
※原曲はアメリカのオードウェイ(Ordway)作曲の
Dreaming of Home and Mother.

翻訳唱歌の代表的なもので、2007年に日本の歌百選に選ばれた。音楽家で医師でもあったオードウェイ(1824~1880)の原曲を訳詞した犬童球溪(1879~1943)は、熊本県人吉市の出身で、本名は「犬童信蔵」。球磨川の溪谷に生まれたことから「球溪」というペンネームをつけた。
熊本師範学校、東京音楽学校を卒業後、音楽教師として各地を転々とし、新潟高等女学校に赴任していたときに、この原曲を知り、遠く離れた熊本の故郷や父母を思い訳詞したとされる。「音楽の道を深め、その成果を故郷に返す」を肝に銘じ、実践した。生涯に250曲ほどの翻訳作詞を残しており、「故郷の廃家」などもよく知られる。

LWのひろば

若い日に旅立った夫へ

野崎田鶴子 84歳 愛知県

生ある者、老若男女ひとり残らず、みな死に向かつて歩んでいる。信仰生活者（プロテスタント）として死を恐いとは思わないが、いかにしてどのような形で死を迎えなくてはならないか、人生の大問題である。これまで体験し直面したどの課題よりも、死こそ、生きとし生けるものにとって深刻な大問題である。

夫を送って40年近く、一人の生活が続いた。天国で待っていてくれるであろう夫を忘れないためにも、ボケたくないと思っている。夫の旅立った日の若さは、今、私の子ども

と等しい。シワだらけのおばあさんを、覚えていてくれるだろうか。夫との北海道旅行の約束を果たせぬまま、突然逝ってしまった故、再び逢えよう。夢みた北海道への旅を実現しよう。リビングウイールは、その日のための望みでもある。

あの世とこの世の境

大久保みよ子 74歳 東京都

11年前、2006年の4月に尊厳死協会に入会した。

前年の冬に病院で亡くなった夫の看取りを経験したことが直接の動機だった。夫は何回か手術をしたもの

の、大腸がんが肺に転移して、ある日、急激に悪化し呼吸困難に陥ったため、かかりつけの病院に入院した。そこで喉を切開して、強制呼吸させる生命維持装置に繋がれた。夫は現職の社長だったため、すぐに死なれては困ることが多すぎた。その意味では、生命維持装置のお陰で、彼は自分のこの世での責任をなす遂げられたと思う。

しかし、3か月近くその様子を目にしていた私は、自分の最期の時には絶対に繋がれたくないと思った。それで尊厳死協会の会員に登録したのである。

今までは会員証をお守り代わりにしていただけの私だったが、今年1月、そのお守りが現実的なお守りとなってくれた。かかりつけ医で肺炎と診断され即入院したのだが、数日後に容体が急変し大病院に緊急転送された。肺炎は肺炎でも急性間質性肺炎だった。その時、頭ははっきりしていたこともあり、救急医に会員証を見せ「延命治療はしないで」と頼んだ。

何とか生還し、数か月後、尊厳死協会に直接感謝を伝えたいこともあり、初めて協会の「サロンin本郷」

「死の直前に開封可」と認め、「尊厳死の宣言書」を添え、延命治療をお断りすることにしています。このような措置をしてから少し心配が薄くなりました。

毎日しているボランティアは私の生活の原点になっています。日々感謝し、ボランティアは他人のためではなく、自分のためなのだと思改めて痛感するこの頃です。

よく死んでいくために

馬場弘好 79歳 静岡県

縁起でもないと思われられていた死について、健全なうちに考える時代になったと感じています。

9年前、人工呼吸器を装着した親せきを見舞った経験から、自分の死に方を自ら考え表明することは、よりよい最期を迎えるために大切なことだと気づき、日本尊厳死協会に夫婦で入会し、登録しました。

老老介護や認知症（認知症同士の介護関係）が増える高齢社会にあつて、元氣なうちに人生の終末をどう迎えるか、家族で話し合っておく必要があると考えています。本人の意思を確認することが難しい時、家

に参加した。最後に皆さんにお伺いしたい。あの世の入口まで行って戻られた方はいでだろうか。臨死体験をされた方という意味です。妄想ではなく、私は、あの世とこの世の境の映像をハッキリと見たからです。

ボランティア18年

斎藤広泰 84歳 北海道

第二の職場を66歳で退職してから、老人介護施設のボランティアをして18年になります。一日1〜3時間、施設のデイサービスに通ってくる高齢者に、飲み物のサービスや買物の手助け、車いすを押ししたりなど。最近は何基やマージャンのお相手もしています。なかには90歳前後の高齢者もいて、日々、元氣をもらっています。

施設には喫茶コーナーもあり、コーヒーを飲みながらの日常の交流の場ともなっており、そこでの話題は、専らこれからの過ごし方。なんといっても、ピンピンコロリが一番。しかし、はたして、そううまくいくだろうか。

私は毎年更新する遺言書の表に

族は重大な決断を迫られます。あらゆる判断を家族に託さなければならなくなつた時、家族はその選択に悩むはずで

終末期の人工栄養法でも、私たちが夫婦は胃ろうが必要になつた際、「胃ろうを着けない」と文書に明記しています。

人生の終焉を考えることは、自分を見つめ、今をよりよく、自分らしく生きることにつながり、それが生きる目標になると思います。よく生きることが、よく死んでいくことだと確信しています。



天空のお城のような、
蜃気楼のような……
撮影／菅野節子さん
(東京都大田区)

八重樫先生の ここがポイント

都内の自宅ベランダから川崎方面を撮影。霧の上に顔を出したノッポビルが、背比べしているようです。

編集部より

● 投稿の募集 テーマは「私の入会動機」「一人暮らしの日々」など何でもけっこうです。600字以内で。掲載の方には図書カードを差し上げます。手紙またはファクス(03-3818-6562)、メール(info@songenshi-kyokai.com)で。

● 写真の募集 1月号に相応しい写真を。数年前の撮影も可。データをメール送信(アドレスは同上)、またはプリントを郵送。選者は日本写真家協会の八重樫信之氏です。いずれも、協会本部会報編集部宛に、「ひろば投稿」と明記のこと。締め切りは11月15日です。

関東甲信越支部 ☎ 03-5689-2100 ✉ kantou@songenshi-kyokai.com

公開講演会inつくば

日程◎12月9日(土)午後1時半～午後4時半
会場◎つくば国際会議場 中ホール200
茨城県つくば市竹園 2-20-3
つくばエクスプレスつくば駅 徒歩10分

講演1「安らかな看取りを求めて」

講師◎岩尾総一郎 協会理事長

講演2「自然死のススメ」

講師◎平野国美氏

医師、茨城県立医療大学客員教授、
ホームオンクリニックつくば院長

定員◎定員200人

入場無料、申込不要、先着順

《地域サロン》のお知らせ

お茶を飲みながら皆さんでお話をする集まりです。
皆さんの地元でも開催できます。問い合わせは支部まで。

in川崎区 (予約不要、先着順です)

日程◎10月18日(水)午後2時～4時

会場◎プラザ田島 4F 第2学習室

川崎市川崎区追分町16-1 カルナーザ川崎
4階(1階はDAISO)

JR川崎駅東口バスターミナルより臨港バス、大師
行もしくは三井埠頭行で「大島3丁目」下車

in川口 (30人、予約不要、先着順です)

日程◎10月27日(金)午後1時半～3時半

会場◎川口総合文化センター・LILIA(リリア) /
タワー棟10階和室 JR京浜東北線川口駅西口正面

in本郷 (電話予約が必要で、支部まで)

日程◎10月13日(金)、28日(土)、11月10日(金)、
18日(土)、12月8日(金)、16日(土)。

いずれも午後1時半～3時

会場◎支部事務所(本部事務局内)

地下鉄丸ノ内線か大江戸線本郷三丁目下車すぐ

東海支部 ☎ 052-481-6501 ✉ tokai@songenshi-kyokai.com

**29年日本リビングウイ
ル研究会 東海地方会**

テーマ「認知症とリビングウイ
ル」

日程◎11月3日(金、祝日)午後1時半～4時半

会場◎愛知県医師会館9階大講堂

=名古屋市中区栄。中日ビル50m南

挨拶◎岩尾総一郎 理事長

基調講演「認知症患者の
尊厳と医療の役割」

講師◎三浦久幸さん

国立長寿医療研究センタ
ー在宅連携部長



パネル討論

「認知症の人の思いを支える」、意見交換も

◎権利擁護の立場から

山田隆司さん 東濃成年後見センター事務局長

◎施設介護の立場から
鬼頭恵津子さん グループホームはるた施設長

◎在宅介護支援の立場から
恒川千尋さん ケアマネジャー

司会◎安藤明夫 協会東海支部理事

日本医師会生涯教育認定講座

どなたでも参加できます。

定員◎定員200人

共催◎愛知県医師会、名古屋市医師会

後援◎中日新聞社

《地域サロンへのお誘い

日程◎10月25日(水)、12月27日(水)、

いずれも午後1時半～3時

会場◎名古屋市中村区の青木記念ホール

地下鉄中村公園駅から徒歩5分

終末期医療、在宅介護など日ごろ感じていること
を、お茶を飲みながら語り合いませんか。
希望者は支部までご連絡ください。

北海道支部 ☎ 011-736-0290 ✉ hokkaido@songenshi-kyokai.com

尊厳死を語るつどい

日程◎10月27日(金)午後2時～4時半

会場◎札幌エルプラザ3階ホール

札幌市のJR札幌駅北口近く

テーマ「看取り—自宅と介護施設の問題点」

講師◎飯田とよ子氏

特養老人ホーム「ふるさと」看護師

小林孝広氏

特養老人ホーム「とよひらの里」施設長

下倉賢士氏

札幌医療生協ホームケアクリニック札幌
ソーシャルワーカー

馬場恵子氏 支部理事、看護師

定員◎300人 無料

北広島地区懇話会 講演会

日程◎10月17日(火)午後2時～3時半

会場◎北広島市芸術文化ホール 2階活動室

講演◎「法と尊厳死」

講師◎馬場正昭氏

弁護士、元日本弁護士連合会副会長

定員◎70人 どなたでもどうぞ

おしゃべり広場

日程◎10月20日(金)午前10時～正午

11月21日(火)午後1時～3時

会場◎札幌エルプラザ3階多目的室

東北支部 ☎ 022-217-0081 ✉ tohoku@songenshi-kyokai.com

**第4回日本リビングウイ
ル研究会 東北地方会**

テーマ「認知症
800万人時代に備える」

日程◎10月15日(日)午後1時半～4時

会場◎仙台市福祉プラザ「ふれあいホール」

(地下鉄南北線「五橋」駅、南1番出口、
徒歩3分)

挨拶◎協会東北支部長 橋村襄

第1部 基調講演

「明日はわが身か？」

—認知症の引き起こす諸問題—

講師◎青嶋利明氏

宮城県認知症疾患医療セ
ンター長、こころのホス
ピタル・古川グリーンヒ
ルズ副院長



第2部 討論

コーディネーター◎

飯島俊彦氏

精神科医師・日本尊厳死協会東北支部理事

パネリスト◎

深澤文雅氏

グループホーム「ふかふか・はうす」所長

小野春佳氏

こころのホスピタル・古川グリーンヒルズ相談
員、精神保健福祉士

青嶋利明氏

宮城県認知症疾患医療センター長

どなたでも参加できます。無料

後援◎宮城県医師会、仙台市医師会、河北新報社

問い合わせ先◎東北支部事務局

**第26回 仙台駅横
リビング・ウイ
ル交流サロン**

テーマ「認知症の人とこう付き合っています
—上手な対応がいっぱい」

日程◎10月13日(金)午後2時～3時半

会場◎「せんだいアエル」6階特別会議室

(JR仙台駅西口、徒歩3分)

お誘い合って、どなたでもどうぞ。無料

第4回日本リビングウイ 研究会 九州地方会

テーマ「**最期は自分で決められる**」

日程◎11月11日(土)午後1時～3時

会場◎鹿児島市の鹿児島県歴史資料センター
黎明館

演者◎**ニノ坂保喜氏** このさかクリニック院長
在宅ホスピスの場で

下野謙慎氏 鹿児島市立病院救命救急
センター医長
救急の場で

五反田満幸氏 鹿児島市医師会在宅医
学会会長、協会かごしま会長
在宅の場で

長尾和宏 協会副理事長
協会の考え方総論

定員◎300人(無料、どなたでもどうぞ)

後援◎鹿児島県医師会、鹿児島市医師会、鹿児
島県看護協会

問い合わせ◎協会かごしま事務局・担当井上
(五反田内科クリニック内、☎099-259-2038)

ふくおか公開講演会

日程◎10月14日(土)午後1時半～4時

会場◎福岡市の天神ビル11階9号室

講演1「先輩医師の教えー死の床について」

講師◎**松股 孝氏**

協会ふくおか会長、遠賀中間医師会おかげ
き病院医師

講演2「在宅医療と尊厳死」

講師◎**輪田順一氏**

協会ふくおか役員、みずほ内科・歯科クリ
ニック医師

定員◎120人

問い合わせ◎支部事務局へ

第9回くまもと県民フォーラム

日程◎10月21日(土)午後1時半～4時20分

会場◎熊本県医師会館(熊本市中央区花畑町、市
役所電停前)

特別講演Ⅰ

「私が決める 私が選ぶ 人生の最終段階」
～わたし流「大往生」

講師◎**前田淳子氏** 在宅医療研究所「てととココ
コロ」副会長、まえだクリニック院長

座長◎**吉田仁爾氏** 協会くまもと副会長

特別講演Ⅱ

「お楽しみはこれからだ」
～豊かな人生の最終章を迎えるために～

講師◎**安東由喜雄氏** 熊本大学医学部部長、大学
院生命科学研究部長

座長◎**安藤正幸氏** 協会くまもと会長

2つの特別講演の間に寸劇があります

定員◎300人

後援◎熊本県医師会、熊本市医師会、熊本県看護協
会、熊本県老人保健施設協会、熊本市、熊本県

問い合わせ◎協会くまもと事務局
(表参道吉田病院内 藤本) ☎096-343-6161

第18回 おおいた市民公開講演会

日程◎10月29日(日)午後1時半～4時

会場◎別府市公会堂 大ホール 550席

講演1「119番の向こう側～救急救命の現場から～」

講師◎**金子 浩氏** 救急救命士

講演2「高齢化社会の法律問題」

講師◎**佐々木淳夫氏** 弁護士

問い合わせ◎協会おおいた事務局

(☎0977-23-2345、麻生)

第8回 九州在宅医療推進 フォーラムin長崎 市民公開講座

日程◎11月18日(土)午後2時～3時半

会場◎長崎ブリックホール国際会議場 426席
＝長崎市茂里町

講演◎「在宅医療の理想と現実」

講師◎**長尾和宏** 協会副理事長、長尾クリニック
(尼崎市) 院長

問い合わせ◎協会ながさき事務局へ
(白髭内科医院内) ☎095-822-5620

市民公開講演会in西宮

テーマ「穏やかな最期を迎えるために」

日程◎10月7日(土)午後1時半～4時半

会場◎西宮市民会館アミティホール

講師◎**関本雅子さん** 関本クリニック院長、支部理事

司会◎**長尾和宏** 副理事長、関西支部長

入場無料で、どなたでも参加できます。
申し込みなしで来ていただいてOKです。

サロン交流会

テーマ「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)とは?
～リビングウイが有効になるために～」

日程◎11月5日(日)午後1時半～3時半

会場◎関西支部事務所(JR新大阪駅、地下鉄新大
阪駅から徒歩5分)

定員◎15人 予約を支部まで

港谷支部理事が担当し、自由に話し合います。

定例サロンへのお誘い

日程◎第2、第4火曜日、午後1時半～4時

10月10日、24日 11月7日、21日

12月12日、26日

会場◎関西支部事務所

第4回日本リビングウイ 研究会 四国地方会in徳島

基本テーマ

「リビングウイを意味あるものに
するために、どうすれば良いのか、
一緒に考えてみましょう。」

日程◎11月19日(日)午後1時半～4時

会場◎徳島市のあわぎんホール

(徳島県郷土文化会館) 5階小ホール

第1部 講演

演題「明るい終活のススメ」

講師◎**木下英孝氏**

木下ファミリークリニック院長

第2部 パネルディスカッション

事前指示書が役立つ場面を寸劇で考える

～医師・看護・介護や患者からの意見～

一般公開 問い合わせは支部まで。

サロン喫茶去だんだん

日程◎10月6日、11月17日、12月1日、いずれも(金)

趣味あれこれ会

日程◎10月20日(金)、11月17日(金)

会場◎いずれも支部事務所

リビングウイ講演会in愛媛

日程◎10月22日(日)午後1時半～3時半

会場◎松山市の愛媛県美術館講堂

講演◎「老いも認知症も妻もあきらめて
生きる～終末期医療の現場から～」

講師◎**中城 敏氏** 医療法人誠志会砥部病院院長

エンディングノート講座

テーマ「終末期について」

日程◎11月10日(金)午前10時～11時

会場◎四国支部事務所

講師◎**野元正弘** 支部長

受講希望の方は支部事務所までご連絡ください。

リビングウイ香川懇談会(公開)

日程◎11月19日(日)午後1時～4時

会場◎市民交流プラザIKODE瓦町大会議室1

高松市常磐町1-3-1 瓦町FLAG 8階

講演◎「認知症に備える

～正しく理解し、予防と対応を考える」

講師◎**中村光夫氏**

いわき病院認知症患者医療センター長

事前に会員から寄せられた質問に関し、懇談も

医療施設名	診療科	医師名(敬称略)	施設所在地	電話
青和会 やまびこクリニック	内科	青木頼子	千葉県市川市柏井町1-1063	047-303-6177
鐘韻会 まきた内科医院	内科	蒔田隆二	千葉県習志野市谷津5-6-14	047-473-1510
養生会 小野木医院	内科	小野木 淳	千葉県市原市能満1845-37	0436-75-4049
村井クリニック	整形 リハビリ ペイン 内科	村井邦彦	栃木県宇都宮市宝木町1-2589	028-621-1541
拓海会 神経内科クリニック	在宅医療部	佐々原友子 会	大阪府豊中市宝山町7-8	06-6841-2027
浅香山病院	緩和ケア内科	濱中裕子	大阪府堺市堺区今池町3-3-16	0722-29-4882
関本クリニック	緩和ケア内科 腫瘍内科 消化器内科	関本雅子 会	兵庫県神戸市灘区八幡町3-4-5	078-846-0933
中島病院	内科	中島倫子 会	岡山県津山市田町122	0868-22-8251
綾川町国民健康保険綾上診療所	内科	十枝めぐみ	香川県綾歌郡綾川町山田下3352-1	087-878-2002
木下ファミリークリニック	内科 皮膚科	木下英孝 会	徳島県徳島市昭和町4-22-8	088-652-1045
あおぞら診療所 高知潮江	内科 小児科	松本 務	高知県高知市北竹島町5-10	088-831-7670
ひろせ整形外科	整形外科	廣瀬大祐	高知県土佐市蓮池1004-1	088-828-5052
リハビリテーションクリニック	リハビリテーション リウマチ			
伊予木クリニック	内科 外科	伊予木増喜	高知県土佐市蓮池1227-5	088-828-5222
佐賀記念病院	総合診療科	徳富 潤	佐賀県佐賀市高木瀬町長瀬1240-1	0952-31-7771

※LW受容協力医師名は、協会各支部ホームページで閲覧できます。 **会員専用認証パスワードは「jsdd」です。**

ご寄付ありがとうございました(敬称略)

鯉坂六彌	3,000	五味佳子	30,000	藤井清子	10,000
阿部昭次・ナホミ	2,000	佐伯昭雄・恵美子	4,000	藤田ミヤ子	35,000
飯山 昇・久美子	13,870	阪野延子	75,671	北條孝子	2,000
池田孝一・みさ子	2,000	笹辺美和子	1,700	真野 端	100,000
石井 弘・靖	10,000	佐藤史子	1,000	村瀬吉彦	100,000
糸岐茂徳・モト子	13,900	下村正昭・久良子	4,000	矢野駒治	5,000
井上房子	4,000	鈴木悦朗	15,800	矢野道子	5,000
海老原正・ヒロ子	2,000	鈴木文子	3,000	吉村民子	10,000
遠藤弘江	42,200	須藤和子	5,000	匿名	50,000
岡田正子	1,000	高橋 光	10,000	匿名	30,000
奥村和夫	3,900	高寺民子	100,000	匿名	100,000
小沢初江	50,000	寺脇みさ子	4,000	匿名	15,822
尾崎知代子	1,000	砺波静子	30,000	匿名	10,000
金子政枝	1,000	内藤澄江	4,000	匿名	5,000
川野深雪	5,000	中野富子	4,254	匿名	5,000
木方嘉子	10,000	中村京子	2,000	【関東支部扱い】	
呉 東富	3,000	永瀬ミチ	5,000	稲葉八重子	10,000
小谷 朗・智子	1,000	南部 浩	10,000	匿名	5,000
小西智子	1,000	西村七海雄・郷子	10,000	【四国支部扱い】	
小橋智子	30,000	樋熊直治	50,000	池田京子	10,000
小松佳代子	10,000	藤木絹江	10,000	俳句の会	2,000

ご寄付は、現金書留、あるいは郵便振替口座「東京00130-6-16468」をご利用ください。

切手でのご寄付もお受けしています。

いずれの場合も、「お名前」「会員番号」と送金の目的が「寄付」であることをお書き添えください。

皆さまのご協力、ご支援をお待ちしております。

医療相談(通話無料)

0120-979-672

月・水・金曜日 午後1時から5時

協会宛メール(✉ soudan@songenshi-kyokai.com)でも受け、役員医師がお答えします。

LWの受容協力医師

第89報

2017年6月～8月の間に
新しく登録された医師の方々です。

【会】は会員医師

医療施設名	診療科	医師名(敬称略)	施設所在地	電話
ゆりがはら内科ケア&クリニック	内科 消化器科 リハビリテーション科	榎本真也	北海道札幌市北区百合が原7-4-25	011-770-7111
さくら内科クリニック	内科	西谷純平	北海道札幌市白石区東札幌4条4丁目1-18	011-817-2171
札幌医療生活協同組合 札幌南青洲病院	内科 緩和ケア科	田村佳久	北海道札幌市清田区里塚1条2丁目20番1	011-883-0602
鈴木内科医院	内科	鈴木 岳	北海道札幌市清田区清田4条2丁目10-25	011-882-2233
溪仁会 手稲家庭医療クリニック	内科 小児科 産婦人科	小嶋 一	北海道札幌市手稲区前田2条10丁目1-10	011-685-3920
鴻仁会 深瀬医院	内科 疼痛緩和内科 リハビリテーション科 心療内科	深瀬晃一	北海道函館市松川町30番12号	013-841-1221
阿久津内科医院	内科 循環器科	阿久津光之	北海道小樽市住ノ江1-8-16	013-433-5678
慈恵会 聖ヶ丘サテライトクリニック	内科 緩和ケア科	岡本拓也	北海道虻田郡洞爺湖町高砂町30番地	014-276-4838
札幌朗愛会 札幌朗愛会病院	内科	川村直之	北海道札幌市豊平区月寒西1条10丁目3-3	011-853-2111
拓心会 紺野整形外科クリニック	整形外科	紺野拓志	北海道札幌市豊平区豊平4条12丁目1番7号	011-818-1511
旭町医院	内科	堀元 進	北海道札幌市豊平区旭町3丁目2-36	011-811-0345
いまいホームケアクリニック	内科 在宅医療	和田 靖	北海道札幌市中央区宮の森2条7丁目1-47-302	011-215-8098
恵和会 宮の森病院	内科	木山善雄	北海道札幌市中央区宮の森1237-1	011-611-2211
よつば家庭医療クリニック	内科 小児科 緩和ケア内科	小西徹夫	北海道札幌市東区北12条東4丁目1-1	011-722-7700
心会和 心療内科あおぞらクリニック	心療内科 精神科 内科	石本隆広	北海道美唄市西2条南2丁目4番20号	012-666-6355
四条はらだ医院	内科 呼吸器内科	原田一暁	北海道旭川市4条通18丁目836番地1	016-632-1810
おうみや内科クリニック	内科 循環器内科 呼吸器内科	近江谷秀昭	北海道旭川市東光14条5丁目6-6	016-639-3636
みどりの里 リバータウンクリニック	内科 外科 在宅医療	鈴木弘子	北海道旭川市旭神2条3丁目6番25号	016-666-0766
信診連 弟子屈クリニック	内科	行木紘一	北海道上川郡弟子屈町湯の島3-1-10	015-482-2220
雄俊会 おんねゆ診療所	内科	三角彰宏	北海道北見市留辺薬町温根湯温泉440-1	015-745-2340
田中医院	内科	田中克彦	北海道網走郡美幌町西1条北3丁目	015-273-2913
仙台厚生病院	消化器内科	友兼正太郎	宮城県仙台市青葉区広瀬町4-15	022-222-6181
富山県立中央病院	消化器内科	松田耕一郎	富山県富山市西長江2-2-78	076-424-1531
がん研有明病院	消化器外科	北川祐資	東京都江東区有明3-8-31	03-3520-0111
JCHO東京新宿メディカルセンター	呼吸器内科	川目千晶	東京都新宿区津久戸町5-1	03-3269-8111
健生会 府中診療所	内科 整形外科	児嶋 徹	東京都府中市府中町1-13-3	042-365-0321
愛育会 三愛病院	内科	堀米政利	東京都八王子市宮下町377	042-691-4111
上杉クリニック	在宅診療内科 胃腸科 肛門科 循環器科	上杉毅彦	神奈川県川崎市中原区下小田中1-15-33	044-766-7171
あさお診療所	家庭医療科	清田実穂	神奈川県川崎市麻生区上麻生2-1-10	044-951-3940
あさお診療所	家庭医療科	竹内美音子	神奈川県川崎市麻生区上麻生2-1-10	044-951-3940
あさお診療所	家庭医療科	勝又聡彦	神奈川県川崎市麻生区上麻生2-1-10	044-951-3940
柿生会 渡辺クリニック	内科 脳神経外科 整形外科 泌尿器科	渡邊寛之	神奈川県川崎市麻生区上麻生7-22-11	044-986-1001
和五会 鷺沼ファミリークリニック		畠中正孝	神奈川県川崎市宮前区鷺沼3-2-6 鷺沼センタービル6階	044-871-4300
横濱高島診療所	緩和医療科 ペインクリニック	小原 健	神奈川県横浜市西区高島2-14-11第2田浦ビル6階	045-451-1717
神風会 港北ニュータウン診療所	リハビリテーション科	神山一行	神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央17-26 ピクトリアセンター南301	045-948-6015
クリニック医庵青葉台	内科 外科	吉澤康男	神奈川県横浜市青葉区青葉台2-30-2	045-982-2150
ポーラのクリニック	内科 皮膚科	山中 修	神奈川県横浜市中区不老町3-14-5中外ビル2階	045-222-8461
睦町クリニック	内科 外科 消化器科	朝比奈 完	神奈川県横浜市南区睦町1-8-3	045-721-5870
サンライズ ファミリークリニック	整形外科 内科 精神科	立野 慶	神奈川県横須賀市武1-20-17 ライフコート横須賀武山クリニックビル3階	048-876-8811
医誠会 大和ホームクリニック	内科	前田和信	神奈川県大和市大和東3-1-6JMビル5F A号室	046-204-5010
ふじわらクリニック	内科 外科	藤原誠一郎	神奈川県横浜市戸塚区汲沢町163	045-871-2905
湘南友和会さとうクリニック	内科	佐藤 隆	神奈川県鎌倉市台5-8-29	0467-43-5220
かまくらファミリークリニック	内科 小児科	栗原大輔	神奈川県鎌倉市由比ガ浜2-6-21	0467-22-0522
中澤医院	内科	中澤深雪	神奈川県藤沢市片瀬山5-134-	0466-24-4179
関本医院	内科 小児科	関本健人	神奈川県藤沢市立石1-2-3	0466-81-2820
おひさまクリニック湘南	在宅医療	柳田 毅	神奈川県茅ヶ崎市高田5-4-36-1F	0467-55-2515
湘南すずきクリニック	外科 消化器内科	鈴木知行	神奈川県茅ヶ崎市ひばりが丘7-10	0467-84-0630
みよし内科クリニック	内科	三好保由	神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-4-36	0467-39-6711
新松戸診療所	内科	栄原智文	千葉県松戸市新松戸4-2-2エフエフ新松戸ビル1階	047-343-9271
コスモスの丘診療所	内科	進藤 哲	千葉県印西市牧の原1-3プレーグ印西牧の原内	050-5318-8824

●本部

〒113-0033
東京都文京区本郷2-27-8
太陽館ビル501
TEL 03-3818-6563
FAX 03-3818-6562
メール
info@songenshi-kyokai.com
ホームページ
http://www.songenshi-kyokai.com/
郵便振替口座
東京00130-6-16468

●北海道支部

〒060-0807 札幌市北区
北7条西2丁目6 37山京ビル801
TEL 011-736-0290
FAX 011-299-3186

●東北支部

〒980-0811 仙台市青葉区一番町
1-12-39 旭開発第2ビル703号室
TEL 022-217-0081
FAX 022-217-0082

●関東甲信越支部

〒113-0033 東京都文京区
本郷2-27-8 太陽館ビル501
TEL 03-5689-2100
FAX 03-5689-2141

●東海支部

〒453-0832 名古屋市中村区
乾出町2-7 正和ビル2階
なかむら公園前法律事務所内
TEL 052-481-6501
FAX 052-486-7389

●北陸支部

〒920-0902 金沢市尾張町1-7-1
山崎法律事務所内
TEL 076-232-0900
FAX 076-232-0932

●関西支部

〒532-0003 大阪市淀川区
宮原4-1-46 新大阪北ビル702号
TEL 06-4866-6365
FAX 06-4866-6375

●中国地方支部

〒730-0024 広島市中区
西平塚町2-10
TEL 082-244-2039
FAX 082-244-2048

●四国支部

〒790-0067 松山市大手町1-8-16
二宮ビル3F B
TEL 089-993-6356
FAX 089-993-6357

●九州支部

〒810-0001 福岡市中央区
天神1-16-1 毎日福岡会館5階
TEL&FAX 092-724-6008

各支部HPへのアクセスは
本部HPからのリンクをご利用ください。

リビング・ウイル Living Will

(終末期医療における事前指示書)
(平成29年7月改訂)

この指示書は、私の精神が健全な状態にある時に
私自身の考えで書いたものであります。

したがって、私の精神が健全な状態にある時に私
自身が破棄するか、または撤回する旨の文書を作成
しない限り有効であります。

□ 私の傷病が、現代の医学では不治の状態であ
り、既に死が迫っていると診断された場合に
は、ただ単に死期を引き延ばすためだけの延
命措置はお断りいたします。

□ ただしこの場合、私の苦痛を和らげるために
は、麻薬などの適切な使用により十分な緩和
医療を行ってください。

□ 私が回復不能な遷延性意識障害(持続的植物
状態)に陥った時は生命維持措置を取りやめ
てください。

以上、私の要望を忠実に果たして下さった方々
に深く感謝申し上げますとともに、その方々が私の要
望に従って下さった行為一切の責任は私自身にあ
ることを付記いたします。

リビング・ ウイルの勧め

日本尊厳死協会は、命の終わ
りが近づいたら延命措置を望ま
ないで、自然の摂理にゆだねて
寿命を迎えるご自分の意思を表
した「リビング・ウイル」を発
行、その普及に努めています。

現在11万人を超す方々が「リ
ビング・ウイル」を持ち、安心し
た日々を送っています。自然の
まま寿命を迎えることは、最期
の日々をよりよく生きること
であり、今を健やかに生きること
につながります。

お友だちやお知り合いに協会
や「リビング・ウイル」のことを
お伝えいただければと願ってい
ます。

事務局から

会費の自動払込のご案内 希望者はこちらご連絡ください

協会年会費払い込みには、自動払込制度(金融機関口座から
自動引き落とし)制度があります。利用には諸手続きがあり
ますので、ご希望の方は本部事務局まで連絡をお願いします。
次の要領で実施しております。

- 対 象 ▶ ご希望の会員
- 払 込 日 ▶ 会費払込該当月の28日(10月払込の
方なら10月28日に引き落とし)
- 払 込 額 ▶ 会費相当額
- 手 数 料 ▶ 1回の払込に162円(150円+税)の
ご負担があります
- 取 扱 取 扱 ▶ 国内ほとんどの金融機関(信金、信組、
金融機関 ゆうちょ銀行、農協含む)
- 領 収 書 ▶ 預金通帳の金額摘要欄に協会名を印
字。領収書は発行しない

●なお、これまで同様、コンビニや郵便局での振り込みも可
能です。会報が緑色のビニール封筒で届きましたら年会費の
納入時期です。封筒の表に「年会費払込票在中」と印刷して
あります。



今号の1枚
『秋色はずむ』

Living Will 目次

— 会報2017年10月 No.167 —

- 02 理事長対談
参議院議員 山東昭子さん
 - 07 協会の新役員決まる
 - 08 ファシリテーター
養成研修会
 - 09 第6回 LW研究会開く
 - 10 LW受容協力医師制度の
展望
ルポ・五味博子医師の活動
 - 12 ●連載「四季の歌」
旅愁
 - 14 ●LWのひろば
 - 16 ●支部活動 2017 秋～冬
 - 20 LW受容協力医師のリスト
 - 22 事務局から／編集後記／目次
 - 23 終末期医療における事前指示書／
本部支部一覧
- 裏表紙 出版案内

協会会員:11万2305人
(2017年9月7日現在)

次号は、
2018年1月1日発行

※本誌記事の著作権は日本尊厳死協会にあります。
引用、転載に関しましては当協会にご相談ください。

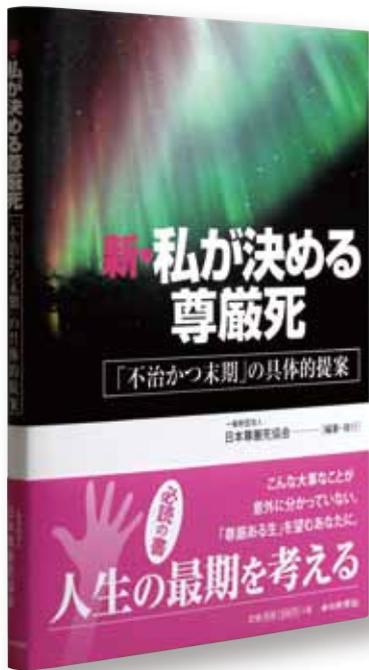
編集後記

●ひと昔前のテレビCM「24
時間戦えますか」を思い出さ
せるような、受容協力医師・
五味博子さんの活動でした。
「寝なくていいのよ、私は」と、
年間200人ほどを在宅で看
取ります。私も在宅で両親を
看取りましたが、医師も訪問
看護師も、夜も昼もない感じ
でした。医師が交代で対応す
るならまだいいのでしょうか、
五味さんの場合、一人。広い市
原市内を駆け回っています。

(郡司)
●まるでパズルのよう、とい
っても遊びではありません。
支部の催しを伝える「支部活
動 秋・冬」の頁作りのこと。
掲載は北の支部から、行事が
頁を跨がないように読みやす
さの工夫をしています。支
部により季節により原稿の行
数が異なります。情報を損な
わないよう行数を削り、体裁
を変えてうまく収まっても、
支部には泣いてもらうことも
あります。今号は4頁に地域
の催しがたっぷり。お出かけ
にはいい季節です。(白井)

新・私が決める尊厳死 「不治かつ末期」の具体的提案

編著・発行 日本尊厳死協会 発売 中日新聞社



人生の最期で迷わないために 尊厳死の「不治かつ末期」

専門医が病態ごとに「不治かつ末期」を分かりやすく説明しています。あなたの「？」に答えがあります。

- **がんの末期** 人工的な栄養・水分の補給は、かえって苦しみを増す？
- **持続的植物状態** 延命措置の事前意思表示がない場合、医師や家族はどうしたら？
- **腎不全** 「余命」宣告後に、医師から透析療法を勧められたら？
- **救急医療** 日本救急医学会が示す「終末期」の判断とは？
- **認知症** 「不治かつ末期」をどう考える、延命措置は？
- **老衰** 天寿を全うする「老衰死」。平穏な死を妨げるものは何か？

自分の終末期にどのような医療を望むのか、望まないのか。医師たちは「具体的な意思表示が大切」と訴えています。

モルヒネは鎮痛薬の王者 あなたの痛みはとれる

編著 日本尊厳死協会 発行 中日新聞社

医療用麻薬のモルヒネ 適正使用で「痛み」はとれる

医療用麻薬を適切に使用した緩和医療は会員の願いです。

- **激痛から解放された**
「痛みが取れ、夜よく眠れて、食欲も出てきた。夢のようです」——モルヒネの投与で激痛から解放された患者の喜びの声です。
- **誤解されているモルヒネ**
モルヒネの「中毒になり、死期を早める」「がん末期にしか使えない」といった誤解は、世界の医学界が否定しています。適正に使用すれば「鎮痛薬の王者」なのです。
- **がん以外の痛みにも効果**
帯状疱疹後神経痛、ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症による脊椎の圧迫骨折、パーキンソン病、閉そく性動脈硬化症など、がん以外の痛みにも効果があります。
- **専門医がアドバイス**
執筆者の1人、加藤佳子医師は、「痛みは本人にしか分からない。我慢しないで、医師に『痛みを取ってください』と言いましょ」と呼びかけています。



お求めは協会事務局で

いずれも1100円(税・送料込)。お名前、住所、会員の方は会員番号、購入希望本を明記、代金を現金書留または定額小為替か切手相当額を同封して協会事務局(〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8 太陽館ビル501)宛に。